

文庫あれこれ◆Fさん丹精の大きなチューリップが住人の居ぬ間に見事に咲いたと、名残りを見せています。来年は花のさかりに来るからね!◆庭にはうぐいすが鳴き、木々の緑が美しいよい季節ですねえ(24日朝)◆1ヶ月以上、花粉症だか風邪だかで、喉つまりと咳で往生しました。こんなとき、病院ざらいはちょっと診てもらおう場所を知らず困ります。横着で情報収集しない私が悪いのですが、つい夫さんの大学病院へ。レントゲンとって、何でもありません。咳も6週間続いたら、近くのお医者さんで見てもらってください。まあ頑張っとうがいを励行するんですね、と、痰きり薬をもらっておしまい。でも、孫や子どもたち相手ですから、結核(ちょっと騒がれたでしょ)でなくてひと安心。◆そんな騒動のせいか、足の痛みが遠のいたようで、ほっとしています(相変わらず、カイロプラクティックには通っています)。◆文庫だよりが字が小さくて、ぎっちり詰まっています、読みにくいというお声を聞きました。つつい、いろいろお知らせしたくて。でもそのせいで、大事なお知らせを読んでいただけないのでは困りますので、考えます。まあ、この「文庫あれこれ」は縮小しましょう。◆今年に入ってちょっと本を買うペースが速すぎました。少し、スローダウンします。リクエストを優先しますので、受付へお申してください。あまり高いものはちょっと考えさせていただきます。(ここまで木曜)◆土曜の朝です。朝方から土砂降り。雨の中、どこに雨宿りしているのか、うぐいすが鳴いています。足元が悪い中、今日は何人の方が見えるでしょうか。◆今朝、メキシコ・アメリカで豚インフルエンザで、死者がたくさん出たというニュース。世界中に広がる予感?正しい情報をつかんで、気をつけましょう。◆閉館中に、文庫へお電話ださる方、留守電にご連絡先を入れてくださいね。◆アートフェスティバルお楽しみに! (西村)

“ “これからの催し物のお知らせ” ”

伊豆高原アートフェスティバル 参加

5月10日(日)~17日(日)

★開館中(10:00~15:00 土曜のみ 10:00~15:00)は、毎日、絵本ミニ原画展・図書館を使った調べる学習賞優秀作品の複製を展示します。

★おとなのために若葉のころのおはなし会
(5月16日午後5:00~7:00)

子どものための若葉のころのおはなし会
(5月17日午前10:30~12:00 ころ)

☀☀語り手は、おはなしの会・沙羅 と、大田おはなしの会のみなさんです。☀☀

★海の日のおはなし会

7月19日(日)5:30から(伊豆高原駅大クスノキ下)

★沙羅の樹文庫開館3周年記念おはなし会

7月20日(月)10:30~12:00(文庫で)

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆6月は 第3土日(20、21日)です。

◆7月も 第3土日(18、19日)です。

◆8月は 13~17日(木~月)です。

(8月は、全日午前10:00~午後3:00)

◆文庫の時間:土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時

◆毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。

午前10:30~11:00

♥文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日でなく第2土曜日ということもあります)。

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
みんなで勉強会(おはなしの会・沙羅)

★5月は9日(土)と15日(金)11:00~です。

沙羅の樹文庫便り

No.32

(2009年4月号)



新緑がまばゆいばかりの気持ちのよい季節になりました。東京の家の花ミズキが今年はじめて、かわいい白い花を3つつけました。ふしぎな花びらに驚きました。文庫の庭の奥にも、2本あります。来てみたら1本には、やはり白い花が咲いていました(紅色の木はいつになったら、目覚めるのやら)。

白鷺の

二羽が ゴドーを待つ

春田

口語訳

旧約聖書 読む

春燈

松本和子

連絡先: 沙羅の樹文庫

電話 0557-51-3737

子どもの本の紹介

今回、私が紹介する本は、最近職場で、5, 6歳児の子どもたちに読み聞かせをした時に、喜んで聞いて、見てくれた本です。(大場 弥生)

❖『はなさがじい 松谷みよ子むかしむかし』❖ (松谷みよ子文 西村繁男絵 童心社 2008)



「アッ、このおはなし、しってる〜!!」と子どもたち。途中、犬のシロが意地悪なおじいさんに殴り殺されてしまうシーンでは、本気になって怒ったり、「シロ、かわいそう」と子どもたち。枯れ木に花が咲いたページになると、「ワー きれい!シロだね」と、安心したような声と顔。改めて、このお話の深さを感じました。

❖『歯がぬけた』❖ (中川ひろたか作 大島妙子絵 PHP 研究所 2002)



歯が抜けはじめた子どもがいたので、今がチャンスと思い、この本を選びました。途中抜けた歯をどうするかというシーンで、話ほり上がりしました。「どうしよう…。ゴミばこにすてちゃった」と、困った顔をしている子もいました。

❖『もこもこ』❖

(谷川俊太郎作 元永定正絵

文研出版 2006) 以前、この本を3, 4歳児に読んでみると、ジーンと絵を見て終わってしまい、何とも言えないおかしさみたいなものを感じるには、ある程度、想像する力が必要なんだと実感しました。

今回、5, 6歳児の子どもたちは、最初の「しーん」のページから期待で顔がニヤケていました。

文字が少ない分、子どもたちは、自分の思いの想像をふくらまし、楽しそうでした。

最後の「しーん」から、また、「もこ」と出てくると何とも言えない空気が子どもたちのあいだに漂いました。



今月はこんな本が入りました!~大人の本~

<文学>

『神器 上・下』(奥泉光著 新潮社 09) 『見残しの塔』(久木綾子著 新宿書房 08) 『少年譜』(伊集院静著 文藝春秋 09) 『役にたたない日々』(佐野洋子 朝日新聞出版 08) 『ゆずゆずり』(東直子著 集英社 09) 『雪になる』(谷村志穂著 新潮社 08) 『喋々々々』(小川糸著 ポプラ社 09) 『恋細工』(西條奈加著 新潮社 09) 『戸村飯店青春100連発』(瀬尾まいこ著 理論社 08)

『詩の風景・詩人の肖像』(白石かずこ著 書肆山田 07) 『深呼吸の必要』(長田弘著 晶文社 1984) 『二人が睦まじくいるために』(吉野弘著 童話屋 03)

『小説の読み方、書き方、訳し方』(柴田元幸 高橋源一郎著 河出書房新社 09) 『声、意味ではなくーわたしの翻訳論』(和田忠彦著 平凡社 04)

『リリィ、はちみつ色の夏』(スー・モンク・キッド著 小川高義訳 世界文化社 05)※09映画化『停電の夜に』(ジュンバ・ラヒリ著 新潮社 00)※ラヒリ処女作:ピューリツァー賞受賞 短篇集の傑作。『僕とカミングスキー』(ダニエル・ケールマン著 三修社 09)※児玉清絶賛 『グローバリズム出づる処の殺人者より』(アラヴィンド・アディガ著 文藝春秋 09)※ブッカー賞受賞『シェヘラザードの憂鬱ーアラビアン。ナイト後日譚』(ナギーフ・マフフーズ著 河出書房新社 09)※ノーベル文学賞作家

<ノンフィクション>

『21世紀の国富論』(原丈人著 平凡社 07) 『動的平衡ー生命はなぜそこに宿るのか』(福岡眞一著 木楽舎 09) 『5分でのたむしむ50話』(エアハルト・バーレンツ著 岩波書店 08)

<文庫・新書>

『山賊賦』(古井由吉著 講談社文藝文庫 06) 『春になったら苺を摘みに』(梨木果歩著 新潮文庫 06) 『おくりびと』(百瀬しのぶ著 小学館文庫 08) 『納棺夫日記』(青木新門著 文春文庫 1996)※遅ればせながら、アカデミー賞受賞作の原作を! 『風に舞いあがるビニールシート』(森絵都著 文春文庫 09)※直木賞受賞 『向日葵の咲かない夏』(道尾秀介著 新潮文庫 08)※「このミステリーがすごい! 2,009年度1位」 『春の怒』(安房直子著 講談社X文庫 08) 『月の松山』(山本周五郎著 新潮文庫 03) 『ぼくと1ルピーの神様』(ヴィカス・スワラップ著 ランダムハウス講談社 09)※アカデミー賞受賞「スラムドッグ\$ミリオネア」の原作 『ベガーズ・イン・スペイン』(ナンシー・クレス著 ハヤカワ文庫 09)※ヒューゴ賞ほか受賞 『子どもの世話にならずに死ぬ方法』(俵萌子著 中公文庫 09) ★下線はヤングアダルトにも読んでほしい本。

今月はこんな本が入りました!~子どもの本~

<絵本>

『もりのまつり』(中谷千代子文・画 福音館書店 1971) 『ぼくのクレヨン』(長新太おはなし・え 講談社) 『ぶたのたね』(佐々木マキ作 絵本館 09:51刷) 『せかいをみにいったアヒル』(マーガレット・ワイズ・ブラウン文イーラ写真 徳間書店 09)

<読み物>

『パパの電話を待ちながら』(ジャンニ・ロダーリ著 講談社 09) 『ビーバー族のしるし』(エリザベス・ジョージ・スピア著 あすなろ書房 09) 『水深五尋』(ロバート・ウェストール著 岩波書店 09) 『国境まで10マイル』(デイヴィッド・ライス著 福音館書店 09)

<リスト>

『からだといのちに出会うブックガイド』(健康情報欄プロジェクト+からだところの発見塾 読書工房 08) ※子どものための本ですが、参考・一般へ配架。

さすがベテランお二人のおはなしと手遊びは

大人も一緒に楽しみました!

「あの山こえてどこいくの」と始まったおはなしは、打ち合わせなしとのことでしたが、最後まで小さいお子さんもみんな、くいいるように真剣に向き合っていてびっくりでした。40分位になったと思うのですが、だらけなかったですね。繰り返しの楽しさや、ふしぎなおはなしや、知らない世界へ連れて行ってくれました。指遊びも大人も一緒にわいわい楽しみました。

「もも、りんご、なし、パイナップル」は前に教えていただいたものなので、一緒にできてよかった!!! (中西) (09.3)

3月に伊豆高原のわらべ絵館でおはなし会&フルーツの会がありました。語り手に、東京から平塚さんと古市さんにきていただいたので、翌日文庫で子どもたちにも願いました。いつ

